

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり 時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

第三千六百七十號
明治廿六年六月一日 木曜日
舊曆癸巳四月十七日 (己巳)

(四) (號本)

(可登省價通)

日一月六年六十二

(紙二金價定)

時事新報定價

時事新報は毎號八角乃至十二圓にして詳細の新聞
價目あり其代價は送付料は左の如し
一、一月 二十圓
一、三月 六十圓
一、半年 一百一十圓
一、一年 二百一十圓
○郵費別加
○廣告別加
○外埠別加

時事新報廣告(附費)

一行五圓
一行三圓
一行一圓

本社(寄稿)付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より
各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を
填寫するより各社同一の記事を掲ぐるものと算からず
時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯種の社
に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通
信社に之を依頼すれば本社にも其報道は達する事と
する方多きが如し爲めに進行を促す事ある場合も等か
らざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に
本社に何れ發送せらるるものとす

時事

帝國の爲めを慮りて

々は普魯斯政略の普魯斯州會に限りられラインタツ
クは獨逸政略の行はれんとを要求するなりと
プンツグもマントイフェルも此攻撃には答辨を試み
ず

政府方の發言者は

普魯斯感情の言葉にいられたるものを聴て唯夫れは
無快なりと云ひ消したるのみ宰相カプテグは此項羅
馬黨の中に發生したる共和主義の傾向に就き漠然たる
解釋を下して云く此黨が今爲しつゝある所の斯る
政略の本源は羅馬法王の内訓

に在りて畢竟法王は今や共和政體の佛蘭西が政策の目
的を居るものにして佛蘭西は全舊教世界をして同一
の方向を執らしめんと勉め居るものと云く獨逸政府は是
まで社會問題に就き羅馬黨の助力を確認せりと雖も
今は乃ち學び得たる所あり

即ち羅馬黨員は先づ舊教徒にして其後に獨逸人なり舊
教を先にして獨逸を後にする者なり左れば同黨員は如
何なる共和流の進化と雖も凡を羅馬法王の宮殿より令
するものは唯命是れ隨ふのみ云々國民自由黨の首領
シトル フォン メンニツヒセンは政府より申出
るたる歩合に同意せんことを勸告して語調穩なる長
演説を爲したりフアンメンニツヒセン氏は帝國が外
對しての無難と海外に於ける威望とに拘る問題に面
接しながらラインタツグの區々たる政黨の争を棄却し
能はざるを擴斥して云くは他國殊に英國の議會の有
様に比較して實に見下り果てたる次第なり蓋し

英國に於ては
最も激烈なる政黨の衝突も未だ曾て帝國政略の經緯に
向て汲ひたるものと云々皇帝ウツルヘルムはメンニ
ツヒセンへ右演説の立論に對し
特別の禮辭

を贈りたり政府敗北の後、直に國會の解散ありたる迅
速の態は各人をして疾雷耳を敵ふの暇あらず唯愕然
たりとめたり左れば撰舉競争に用意整ひ居りし者は
社會共和黨のみ

社會黨候補者の撰出
可し左れば同黨が次期のラインタツグに今より
多くの代議士を出す可しと期するも無理ならずと云
(完)

○直轄諸學校の經費 井上文部大臣は省内の行
政費を削減するに消極的の方針を執れども直轄の諸
學校に對しては寧ろ積極的主義を執る由曾て本紙に記
したる事ありしも經費削減の時節柄とて今更諸學校の
經費を削減する事は異して能く實際に行はるべきや否
や不確の語なれば此の際諸學校の經費中に就き節
制すべきものは成るべく節して同一の金を投じて
今より一層其實効を發揮せしめんとするもの如くな
れば商工業學校には或は多額の追加を見るものもあ
るべしなればも其他直轄諸學校の本年度の經費は本年
度より増やせんとすべしといふ

○海軍教育法の取調 海軍省に於ては今度の改
正に際し教育法にも改正を加ふる由は前報に記せし如
くなるが教育訓練の事
右は軍令部に於て其案
務局に題はし夫より海
及び御裁可を仰ぐの順
○警視廳會議 府
時より警視廳に會合團
上警保上に關する會議
○男爵議員の撰舉
執行する男爵議員の補
は赤松男爵なりしが
しとの議起り目下同族
者を勸誘しつゝある由
競争を見るものと云
○神宮教院の改訂
紀尾井町に神宮司廳出
しが抑も一の權與に
樂町に移したるは則ち
年の官令によりて神宮
に依り神宮司廳より同
に全く特立の神宮教
舉げられたり故に日比
去る二十二日より一
院の所有地となすこと
れば同院の改革も是よ
○渡米僧侶の協議
國宗教大會(出席せん
會合して渡米後の運動
と目下夫々協議中なる
も幾干と僅に定まらざ
會にても此の大會出席
は兎に角其上にて開會
○北海道の移住巨
昨二十五年中内地各府
總計は一萬一千三百六
二萬四千二百八十九人
其國別は左の如くなり

○忙中閑話
小兒の大體(へ)
十九世紀の今の世は昔
れを考ふれば未だ蓋だ
上に居ながら互に知ら
ぬの事多し
多として傍人者多し
さす殊に腰より爪先

○獨逸の軍備擴張案否決 (二十八日の續き)
對獨逸に對し最も人目を驚かせしは
非普魯斯感情の復興にして
殊に羅馬黨議員の演説中に最も其甚だしき言を覺えたり
リール氏がカプテグを以て軍備擴張案の通過を勉
めしめんとしカプテグは之を以て羅馬黨の最も拙劣なる
言を以て之を駁して前は語とて云く羅馬黨は今日は
中央黨の獨逸主義を擁護せんとする大望に向て
闘争するなり現は普魯斯主義を擴張し帝國立法の區
域に侵入せんとする羅馬黨を非とする者なり左れば

石 橋 廣 高 橋 志 守
日 報 十 日 報 廣 石